

放送日： 平成 20 年 12 月 14 日
タイトル： 乳がん検診を受けましょう
担当者： 医師 辻 宗史

こんにちは。公立甲賀病院外科の辻と申します。

皆さんは乳がん検診を受診されていますでしょうか？今日は乳がん検診についてお話しますが、その前に乳がんについて簡単に説明します。

現在の日本では食生活や生活スタイルの欧米化などによって乳がんが増加しており、毎年約4万人が乳がんにかかるといわれています。それは日本人女性の約25人に1人がかかる計算で、女性がかかる癌の第1位となっています。今後も乳がんは増加傾向が続くとされ、1985年の乳がんにかかる率を1とすると、2015年にはその1.9倍の方が乳がんにかかる予測されています。

みなさんは癌にかかれば必ず死ぬと考えてはいませんか？確かに癌は怖い病気ですが、乳がんは胃がんや肺がんなどと比べると進行がゆっくりしている傾向があり、早期に発見すれば治療率が高い癌とされています。ごく早期の場合にはほぼ95%が治ると言われています。

また、早期であれば乳房温存療法が可能で、治療後もQOL(生活の質)を下げることなく生活できることがわかっています。ですから、早期発見すれば、乳がんは決して怖い病気ではありません。

では、どうすれば乳がんを早期に発見できるのでしょうか。ひとつは自己検診です体の表面に近い部分に発生する乳がんは、自分の目と手で発見することができる数少ない癌です。乳がん患者の8割以上の方が、自分で異常に気づいて受診しています。月に1度は自己検診を行いましょう。普段から自分の乳房に触り慣れていれば、小さな異常にも、いち早く気づくことができます。自分で触れて気になる”しこり”がある場合、あるいは気になる症状がある場合は、「もし乳がんだったら」と怖がらずに、早めに乳腺外来の診察を受けましょう。

乳がんを早期に発見するもう一つの方法は、定期健診すなわちマンモグラフィ併用の乳がん検診です。乳がん検診では一般的に視診・触診とマンモグラフィ検査を行います。各自治体で40歳以上の女性を対象に2年に1度実施していますが、乳がんは心配だけどマンモグラフィが痛いので検診を受けないという方が多くおられるようです。確かに乳房をはさみこんで撮影しますので多少の痛みは伴います。しかし、実際受けられた方のほとんどが、その後も定期的に検査を受けられていますし、マンモグラフィを併用することで乳がんの発見率が非常に高くなることも証明されています。自治体では2年に1度しか受けられませんので、毎年の検診を希望する方や20代、30代の方、検診で精密検査が必要とされた方、乳房に異常を感じる方は怖がらずに甲賀病院乳腺外来を受診ください。日本乳がん学会の専門医、認定医が視触診、マンモグラフィ検査に加え超音波検査、細胞診検査などを行い、乳がんの早期発見、治療に努めます。昨年度は26件の乳がん手術をてがけ、その60%が乳房温存手術でした。乳腺外来は毎週月曜日と金曜日の午後1時から3時まで受付しています。乳がんにももかかりやすい40代、50代の女性だけでなく、最近では60代や30代の女性の乳がんも増加していますので、女性の方はみなさん乳がん検診を受けていただくようお願いいたします。